

市民百景

第1回

興味を持ったら実践

その先で掴んだ全国3位

仙台高等専門学校2年 佐々 凱音^{かいと}さん (17)



当市出身で現在、仙台高専に通う佐々凱音さんが、全国の20歳未満の高校生、高専生、専門学校生、職業能力開発大学校生で産業用ロボットの新たな活用方法を考える大会「ロボットアイデア甲子園」で3位に当たる企業賞を受賞しました。全国大会への出場も難しいと言われるこの大会ですが、6県28校から約400人が参加した東北予選を勝ち抜き東北代表として出場しての受賞となりました。

佐々さんのアイデアは「Rescue spider」—命を救え救助蜘蛛—というもので、消防隊が救助する前にロボットを活用して要救助者の居場所や安否、建物などの情報を把握し、救助の手助けをするというものです。「賞を取れたことは、自分でも驚きだが、素直にうれしい。消防士は人を助ける仕事だけど、その過程で殉職事故が起

きることもあるというのは消防士である父からも聞いていた。そのため、要救助者と消防士両方を救うことができなにかと考え、自分が好きなスライダーマスを模したクモ型のロボットを考案した。」

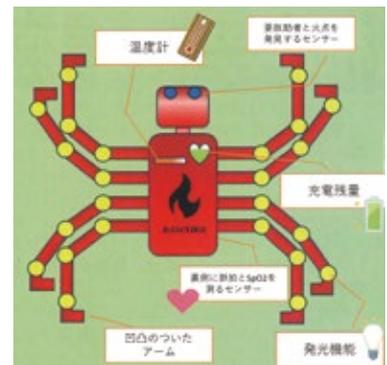
今回この大会に出たきっかけを尋ねると「もともと好奇心が旺盛で、気になっただけでやる性格。そのため、今回の大会も出てみようと思った」と語ります。



全国大会授賞式。前列左から4人目が佐々さん

親元から離れた仙台高専を志した理由は「計算や工学系、モノづくりといったジャンルが好きだったから」と言います。中学2年の時に、塾講師である母の聖美^{さとみ}さんから仙台にも高専があることを聞き、オープンキャンパスへ。「先輩たちの卒論発表やカリキュラム、学校生活を聞き、自分の興味がある分野を学べるのはここだと思った」と振り返ります。「留年してでも行きたいと思い、滑り止めは受けなかった」の言葉からも決意の固さが伺えます。

今後について「これから、さらに多くのことを経験して、これだ！という道を見つけたい」と目を輝かせながら話す佐々さんの今後に注目です。



考案したロボットのイメージ図

